



The international chemical congress of pacific basin societies 2015 参加報告書

広域科学専攻 修士課程 2年 俵家優紀 (真船研究室)

私は、12月15日から12月20日にハワイ州ホノルルで行われた2015環太平洋国際化学会議に参加した。この学会は多国間の交流を目的としており、環太平洋以外の国々の研究者も参加しているなど、多くの国々の科学者が集まっていた。さらに産業と学究的研究、政府研究間の交流を目的としており、産業とCROs、CMO's間の交流に焦点を当てている。研究分野は分析・無機・高分子・有機・物理・地球化学・生物学・物質科学・エネルギー化学・医療科学・社会へと科学の繋がりの大きく分けて11のテーマがあり、科学全般を対象とした学会となっていた。

私は12月16日に”Reaction of cationic rhodium clusters, Rh_n^+ , with NO in thermal energy region”という題目でポスターセッションを行った。本発表は真船研究室で行っている多元素遷移金属触媒設計の研究開発の一つであり、熱エネルギー領域におけるロジウム金属クラスターと一酸化窒素の反応性について調査したものである。ポスターセッションの時間は2時間設けられていたため、アメリカ、台湾、スペイン、日本など様々な国の研究者と内容について議論を行うことができ、質疑応答を通して自分の研究内容以外についての知見を深めることができた。また、自分の研究で参考にしていただいていた論文の著者と実際に会って討論できたことは大きな収穫となった。

本学会は観光地としても人気のオアフ島ホノルルで行われた。同時期にホノルルマラソンも行われていたためか、ハワイの町が普段以上に日本人で溢れていたように思える。またテーマ毎に7つの会場で学会が開かれていたため、ワイキキビーチ沿いにはPacifichemのトートバックを持っている人で溢れかえっていた。リゾート地ということで観光気分も味わえた上に、様々な国の研究者との新たな出会いが多くあった今回の学会は、これまでになく満足感を得られた学会となった。

